



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東
コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営サポート本部長 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371
兼 人材戦略部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	78,164	7.4	6,151	47.3	6,610	46.7	4,466	45.6
2025年3月期第3四半期	72,760	3.1	4,177	18.1	4,504	17.7	3,067	△1.2

(注) 包括利益2026年3月期第3四半期 5,663百万円(122.1%) 2025年3月期第3四半期 2,550百万円(△51.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	144.74	—
2025年3月期第3四半期	99.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	87,669	59,312	67.0
2025年3月期	80,576	54,326	67.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 58,753百万円 2025年3月期 54,047百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2026年3月期	—	15.00	—		
2026年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,000	6.0	6,200	18.7	6,800	22.1	4,200	33.3	136.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	32,009,910株	2025年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1,151,343株	2025年3月期	1,155,968株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	30,856,155株	2025年3月期3Q	30,851,870株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料6ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間においては、雇用・所得環境の緩やかな改善と、円安等を背景としたインバウンド需要が外食市場を下支えする要因となりました。一方で、不安定な国際情勢による景気減速リスクや個人消費の先行きに対する不透明感に加え、原材料・エネルギー価格の高止まりや為替変動による調達費用の上昇、さらに国内における人手不足の深刻化とそれに伴う人件費の上昇など、依然として予断を許さない事業環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、2025年5月に当年度を初年度とする新たな中期経営計画(2025-2027)を発表いたしました。この中期経営計画では、『「心のやすらぎ」「ほのぼのとした暖かさ」を、世界の人々に』を実現し、世界が注目する外食のアジアオンリーワン企業というありたい姿を掲げ、各施策の実行を開始いたしました。

基幹事業である国内モスバーガー事業においては、消費の二極化に対応するため、前年度に引き続き「価格のグラデーション化戦略」と「時間帯別売上上の平準化」を推進いたしました。これにより、幅広い層のお客様の獲得に繋げ、売上基盤の強化を図りました。さらに、全社的に費用対効果を意識して販管費の抑制に努めたほか、在庫回転率の向上による保管費の抑制や移送の効率化など、前年度に引き続き多角的なコスト抑制策を実行いたしました。

海外事業では、既存進出国の課題解決を最優先とし、店舗収益力向上とブランディング強化に取り組みました。また、グローバルで最適な食材供給ネットワークの構築に向けて、グループ及び関係企業の生産・供給機能の強化も進めております。

また、ESGの観点から当社グループのマテリアリティ(重要課題)のテーマを、①食と健康、②店舗と地域コミュニティ、③人材育成と支援、④地球環境の4つに定め、事業活動を通じて社会に向けた価値創造に取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が781億64百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益61億51百万円(同47.3%増)、経常利益66億10百万円(同46.7%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は44億66百万円(同45.6%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しております。従来の「その他飲食事業」を「新規飲食事業」へ名称変更を行うと共に、従来「国内モスバーガー事業」に含まれておりました「MOS50」「Stand by Mos」「mosh」にかかる事業を「新規飲食事業」に移行しております。この移行は、各ブランドの育成を促進することを目的とした組織変更に伴うものであります。

以下の前年同期比較につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

<国内モスバーガー事業>

国内モスバーガー事業では、お客様のニーズに合わせた商品開発、マーケティング展開に加え、既存店の基盤強化と地域に密着した店舗運営を推進したことで、既存店売上高・客数・客単価が前年度を上回りました。

モスバーガー既存店及び全店実績(2025年4月～12月)

(前年同期比)

既存店売上高	既存店客数	既存店客単価	全店売上高
110.4%	107.2%	103.0%	110.7%

① 商品・マーケティング施策

当年度は、日本の食文化を大切に商品開発と、「和ごころエンジョイ」をキャッチフレーズにしたマーケティングを展開しております。

冬のキャンペーンにおいては、年末年始に合わせた自分へのご褒美として、アボカドを贅沢に使用した「アボカドバーガー」を期間限定で発売いたしました。昨年よりお得感のある価格に設定し、健康意識の高い層や女性客へ訴求したほか、パティ2枚の「ダブル」も発売し多様なニーズに対応いたしました。

また、素材と製法にこだわったプレミアムシリーズ「モスの匠味（たくみ）」より「黒毛和牛のダブルチーズバーガー」を数量限定で発売いたしました。本格的な肉の味わいと食べ応えを求めるニーズに応え、黒毛和牛の旨みを専用のチーズとソースで引き立てた「お肉を楽しむためのバーガー」として展開いたしました。

地域限定商品では、令和6年能登半島地震災害復興を応援するため、北陸・中京地方と東京都板橋区の店舗にて、リニューアルした「金沢カレーカツバーガー」と新たに「モスライスバーガー 金沢カレーカツ」を数量・地域限定で発売いたしました。なお、対象商品1個の販売につき20円を災害義援金として寄付する取り組みも合わせて実施いたしました。

② 店舗施策

居心地の良い店舗空間づくりを推進したほか、「時間帯別売上の平準化」の取り組みの一環として、カフェ需要に対応したドリンクやスイーツの充実を図りました。さらに、店舗スタッフのオペレーション効率化を実現する機器を導入し、生産性向上を通じてお客様への商品提供時間の短縮に努めました。

出退店実績（2025年4月～12月）

（2025年3月末比）

出店	退店	店舗数	増減
12	21	1,309	△9

※ブランド育成を促進するため、国内モスバーガー事業に含まれていた「MOS50」「Stand by Mos」を新規飲食事業に区分変更いたしました。

③ デジタル技術の活用

お客様を起点としたデジタル化を進め、利便性の向上に取り組みました。具体的には、「非対面受注」の拡大を図るため、全店舗に導入しているレジに並ばずに注文できる「お席で注文」の活用を引き続き促進したほか、将来の人手不足を見据えた「フルセルフレジ」の導入、ドライブスルーにおける注文時間短縮のためのデジタルサイネージ活用などを推進いたしました。

④ 新たな事業展開

マーチャンダイジング事業では、公式オンラインショップ「Life with MOS」において、商品ラインナップの充実を図っております。その一環として、冷凍ピザメーカーと初のコラボレーションを行い、人気商品「テリヤキチキンバーガー」の味わいを再現した「モスバーガー監修 テリヤキチキンピザ」を発売いたしました。また、19年連続でミシュラン三つ星を獲得している日本料理店監修のもと、国産うなぎを贅沢に使用した「炭焼き 国産鰻重バーガー」を数量限定で発売いたしました。

今後もこの取り組みを拡大し、ブランド価値の向上とともに、新たな収益源へと育成してまいります。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は640億98百万円(前年同期比10.7%増)となり、セグメント利益（営業利益）は68億68百万円(同31.7%増)となりました。

<海外事業>

海外事業では、既存進出国・地域の課題解決とともに、グローバルで最適な食材供給ネットワークの構築に向けて、各重点施策を推進いたしました。

香港においては、収益力の向上とブランド力の強化に向け、日本発祥のブランドであることを訴求する取り組みを展開いたしました。具体的には、店舗看板のカタカナ表記化などの施策を含む店舗改装と販売促進活動を連動させることで、ブランド価値のさらなる向上を図りました。

サプライチェーンの構築においては、子会社である台湾の魔術食品工業股份有限公司にて新工場の稼働に向けた準備を引き続き進めました。来期中に予定している本工場の稼働により、今後の海外展開における安定した食材供給と、コスト効率の改善による成長基盤の強化を推進してまいります。

不採算店舗の閉店、価格戦略の見直し、管理コストの抑制といった収益性改善策を講じた結果、営業利益は増加いたしました。店舗数は前期末比で10店舗減少し、合計412店舗となりました。

海外店舗数増減

国・地域名	2024年12月末時点	2025年9月末時点	増減数
台湾	299	298	△1
香港	43	43	±0
シンガポール	36	31	△5
タイ	24	22	△2
韓国	13	13	±0
フィリピン	7	5	△2
合計	422	412	△10

※海外事業に属する関係会社の当第3四半期累計期間は2025年1月から9月であるため、同期間の情報を記載しております。

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は115億28百万円(前年同期比8.4%減)、セグメント利益(営業利益)は3億84百万円(同67.9%増)となりました。

<新規飲食事業>

新規飲食事業においては、収益性の改善と事業ポートフォリオの再構築を見据え、サービスレベルの向上やテイクアウト、デリバリーの拡大など運営力をさらに磨き上げ、成長事業へと育てるべく取り組みを進めております。

新規飲食事業概要

(2025年12月末時点)

事業	事業の内容	店舗数
マザーリーフ	スリランカの茶園直送の紅茶とアメリカンワッフルを提供する紅茶専門店	3
マザーリーフ ティースタイル	新しい紅茶のスタイルを提案するセルフスタイルカフェ	7
モスト	モスバーガーとミスタードーナツとのコラボレーションショップ	2
モスプレミアム	グルメバーガーとお酒が楽しめるフルサービスレストラン	2
カフェ 山と海と太陽	バリエーション豊かなドリンクとハンバーガーを提供するカフェ店舗	2
あえん	四季折々の旬菜料理を提供する和風レストラン	4
玄米食堂あえん	こだわりの玄米定食をメインにした食堂タイプの「あえん」	3
MOS50	2022年の創業50周年を記念して誕生した、プレミアムなハンバーガーなどの専用商品を販売するキッチンカー	2
Stand by Mos	規格外野菜の活用でフードロス削減及び産地・生産者の支援に貢献する、ジュース・スムージーを提供するドリンクスタンド	1
合計		26

※ブランド育成を促進するため、国内モスバーガー事業に含まれていた「MOS50」「Stand by Mos」を新規飲食事業に区分変更いたしました。

以上の事業活動の結果、新規飲食事業の売上高は15億28百万円(前年同期比8.3%増)、セグメント損失(営業損失)は1億41百万円(同43百万円の損失増)となりました。

<その他の事業>

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは衛生、株式会社モスクレジットは機器レンタル業務や保険代理店業務・決算データ管理、株式会社モスシャインはグループ内業務のアウトソーシング等により主に国内モスバーガー事業や新規飲食事業を支援しております。

これらによるその他の事業の売上高は10億9百万円(前年同期比18.7%増)となり、セグメント利益(営業利益)は4億80百万円(同9.2%増)となりました。

上記以外の取り組みとして、モスグループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、環境・社会・ガバナンス(ESG)の観点から4つのマテリアリティ(重要課題)を特定し、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進しております。

主な取り組み(2025年4月～12月)

「第17回マザーズセレクション大賞2025」を受賞	「こどもス」プロジェクトを通じた安心・快適な店舗づくりや、親子で野菜をおいしく食べられる商品提供が評価され、子育て期の父母の投票による「マザーズセレクション大賞」を受賞いたしました。
「愛のモスボックス」募金贈呈式の実施	全国の店舗に設置している「愛のモスボックス」でお預かりした募金を、視覚障がいのある方々の歩行を支援する公益財団法人アイメイト協会及び「ジェフ愛の募金」に寄付いたしました。
“MOS RECORDS”第2回オーディション「音楽」「アート」両部門の受賞者決定	店舗スタッフを対象としたオーディションを実施し、音楽部門では「星野美月」が、アート部門では「Ebio.」がグランプリに輝きました。今後も本プロジェクトを通じて、店舗で働くキャストの才能を発掘・応援してまいります。
ホットドッグ新パッケージが「アクセシブルデザイン包装賞」受賞	「2025日本パッケージングコンテスト」の「アクセシブルデザイン包装賞」を受賞。新パッケージは、ワンハンドでの喫食を可能にしたほか、紙・プラスチックの使用量を削減するなど、環境負荷低減にも貢献しております。
障がい者アートを内装に採用(原宿表参道店)	障がいのあるアーティストの独創的なアート作品を店舗内装に7点採用し、作品発表の場を提供することで、社会参加と多様性をサポートいたしました。
障がい者アートの紙カップで社会参加支援	「MOSごと美術館イラストカップ」として、障がいのあるアーティストの作品をあしらった紙カップを使用し、作品の提供を通じて社会参加と表現活動を支援いたしました。
「グリーンバーガー〈テリヤキ〉」プラントベース食品認証取得	植物由来の「グリーンバーガー〈テリヤキ〉」がプラントベース食品認証を取得し、食の多様性への対応と環境負荷の低減に取り組みしました。
こども支援活動「こどもごちめし」に参画	夏休みの子育て世帯を支えるため、夏休み期間に子育て世帯へ食料(全国で1万食)を無償提供する支援活動に参加いたしました。
「こだわりサラダ」リニューアル(減塩、障がい者栽培野菜、紙容器)	減塩ドレッシング、障がいのある社員(チャレンジメイト)が育てた野菜の使用、テイクアウト容器の紙製化を実施いたしました。
乳幼児向け視力測定検査機器の共同研究開発を開始	当社は、名古屋大学医学部附属病院、株式会社夏目総合研究所と共同で、乳幼児向け視力検査機器の研究開発を開始いたしました。6月10日の「こどもの目の日」を機に、モスバーガー店舗で弱視早期発見のための啓発リーフレット配布など、情報提供活動も推進しております。
「モスグループ カスタマーハラスメント対応方針」を策定	モスグループは、共に働く全従業員の人権、健康、安全を尊重し、カスタマーハラスメントのない公平で持続可能な社会の実現を目指し、「モスグループ カスタマーハラスメント対応方針」を2025年4月1日付で策定いたしました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度に比べ70億92百万円増加し、876億69百万円となりました。流動資産は前連結会計年度に比べ55億12百万円増加し、固定資産は15億80百万円増加しております。資産が増加した主な理由は、クリスマス商戦等の季節変動により売掛金や棚卸資産が増加したこと及びキャッシュレス決済増加により未収入金が増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ21億7百万円増加し、283億57百万円となりました。この増加の主な理由は、借入金返済により減少した一方で、クリスマス商戦等の季節変動により買掛金が増加したこと及びキャッシュレス決済に伴うF C加盟店への未払金が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ49億85百万円増加し、593億12百万円となりました。この増加の主な理由は、配当金の支払により利益剰余金が減少した一方で、それを上回る親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことによるものであります。自己資本比率は前連結会計年度末67.1%から当第3四半期連結会計期間末は67.0%と0.1ポイント減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日(2026年2月13日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,300	25,703
受取手形、売掛金及び契約資産	7,847	10,032
有価証券	716	896
商品及び製品	3,940	4,373
原材料及び貯蔵品	662	779
未収入金	4,793	7,080
その他	486	395
貸倒引当金	△17	△17
流動資産合計	43,730	49,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,772	6,707
機械装置及び運搬具（純額）	195	155
工具、器具及び備品（純額）	3,801	4,034
土地	1,054	1,058
建設仮勘定	145	553
有形固定資産合計	11,969	12,509
無形固定資産		
その他	2,211	2,552
無形固定資産合計	2,211	2,552
投資その他の資産		
投資有価証券	14,067	14,837
長期貸付金	1,104	1,021
差入保証金	5,032	4,939
繰延税金資産	73	50
その他	2,428	2,550
貸倒引当金	△25	△17
投資損失引当金	△16	△17
投資その他の資産合計	22,665	23,364
固定資産合計	36,846	38,426
資産合計	80,576	87,669

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,895	6,708
短期借入金	295	—
リース債務	1,685	1,523
未払金	6,528	8,511
未払法人税等	1,224	776
賞与引当金	557	369
ポイント引当金	96	99
資産除去債務	52	179
その他	3,049	3,238
流動負債合計	19,385	21,408
固定負債		
長期借入金	2,160	1,620
リース債務	1,288	1,369
繰延税金負債	261	765
役員株式給付引当金	17	25
株式給付引当金	219	233
退職給付に係る負債	158	143
資産除去債務	891	824
その他	1,867	1,966
固定負債合計	6,865	6,949
負債合計	26,250	28,357
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,119	11,147
利益剰余金	28,411	31,938
自己株式	△1,788	△1,827
株主資本合計	49,155	52,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,362	3,768
為替換算調整勘定	2,447	2,292
退職給付に係る調整累計額	82	20
その他の包括利益累計額合計	4,892	6,082
非支配株主持分	279	558
純資産合計	54,326	59,312
負債純資産合計	80,576	87,669

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	72,760	78,164
売上原価	38,357	41,573
売上総利益	34,403	36,591
販売費及び一般管理費	30,225	30,439
営業利益	4,177	6,151
営業外収益		
受取利息	70	107
受取配当金	95	92
設備賃貸料	178	147
持分法による投資利益	32	25
立退料収入	2	151
その他	297	279
営業外収益合計	676	802
営業外費用		
支払利息	136	138
設備賃貸費用	128	106
その他	84	98
営業外費用合計	349	343
経常利益	4,504	6,610
特別利益		
固定資産売却益	239	134
投資有価証券売却益	42	—
関係会社出資金売却益	1	—
関係会社清算益	—	15
特別利益合計	283	149
特別損失		
固定資産除却損	33	209
減損損失	386	222
投資有価証券評価損	12	0
関係会社清算損	—	0
投資損失引当金繰入額	1	1
特別損失合計	433	433
税金等調整前四半期純利益	4,354	6,327
法人税、住民税及び事業税	1,202	1,558
法人税等調整額	72	292
法人税等合計	1,275	1,850
四半期純利益	3,079	4,476
非支配株主に帰属する四半期純利益	12	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,067	4,466

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	3,079	4,476
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△499	539
為替換算調整勘定	△35	△157
退職給付に係る調整額	△19	△61
持分法適用会社に対する持分相当額	26	867
その他の包括利益合計	△528	1,187
四半期包括利益	2,550	5,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,544	5,656
非支配株主に係る四半期包括利益	6	7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	新規飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	57,912	12,586	1,411	850	72,760	—	72,760
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	136	1	96	1,108	1,342	△1,342	—
計	58,049	12,587	1,507	1,958	74,103	△1,342	72,760
セグメント利益又は損失(△)	5,217	229	△98	440	5,788	△1,610	4,177

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,610百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,573百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて52百万円、「海外事業」セグメントにおいて333百万円、「新規飲食事業」セグメントにおいて1百万円の減損損失を計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	新規飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	64,098	11,528	1,528	1,009	78,164	—	78,164
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	155	—	115	1,118	1,389	△1,389	—
計	64,254	11,528	1,643	2,127	79,554	△1,389	78,164
セグメント利益又は損失(△)	6,868	384	△141	480	7,592	△1,440	6,151

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,440百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,413百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「その他飲食事業」を「新規飲食事業」へ名称変更を行うと共に、従来「国内モスバーガー事業」に含まれておりました「MOS50」「Stand by Mos」「mosh」にかかる事業を「新規飲食事業」に移行しております。この移行は、各ブランドの育成を促進することを目的とした組織変更に伴うものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、事業区分変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて94百万円、「海外事業」セグメントにおいて99百万円、「新規飲食事業」セグメントにおいて28百万円の減損損失を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	3,307百万円	2,929百万円

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2026年1月26日開催の取締役会において、2026年4月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社モスクレジットを吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

1. 取引の概要

(1) 被結合企業の名称及び事業の内容

被結合企業の名称 株式会社モスクレジット

事業の内容 レンタル業、保険代理業、金銭貸付業

(2) 企業結合日

2026年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社モスクレジットを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社モスフードサービス

(5) 企業結合の目的

株式会社モスクレジットは、当社グループの子会社として加盟店への金銭貸付業務や保険代理業務、レンタル業務等を行っておりますが、グループ全体での業務効率化を図ることを目的として、今般、当社が同社を吸収合併することといたしました。

(6) 合併に係る割当内容

完全子会社との合併であり、新株式の発行及び金銭等の交付は行いません。

(7) 被結合企業の直前事業年度の財政状態及び経営成績

資産 4,164百万円

負債 2,160百万円

純資産 2,003百万円

売上高 1,773百万円

当期純利益 323百万円

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。